

## ルワンダ月報（2019年7月）

### 主な出来事

#### 【内政】

- 4日、ジェノサイド解放25周年記念式典を開催した。
- 22日、ルワンダ公益事業規制局（RURA）は、放射性物質運搬に関する研修を主催した。

#### 【外政】

- 5日、カガメ大統領は、ビオ・シエラレオーネ大統領と会談した。
- 10日、シャーバット・イスラエル国家安全保障委員長がルワンダを訪問した。
- 12日、ルワンダ、アンゴラ、コンゴ（民）、ウガンダの4か国首脳会談がアンゴラで開催された。
- 23日、カガメ大統領は、英国にてチャールズ皇太子殿下と会談した。
- 27～28日、カガメ大統領は、ナイジェリアで開催された Tony Elumelu 財団起業家フォーラム（TEF）に出席した。

#### 【経済】

- 13日、ルワンダは、アジア・インフラ投資銀行（AIIB）に加盟した。

※以下は、明示したものを除き、ルワンダの英字日刊紙 The New Times の記事を取りまとめたもの。

#### 【内政】

##### ・ジェノサイド解放25周年記念式典（4日）

4日、ルワンダは、ジェノサイド解放25周年記念式典を開催し、アフリカ6か国の大統領ほかが出席した。

##### ・放射性物質運搬に関する研修（23日）

22～26日、ルワンダ公益事業規制局（RURA）は、IAEAとともに、放射性物質運搬に関する研修をキガリで開催した。同研修には、アフリカ14か国から25人が参加し、IAEAの安全な放射性物質運搬規約及びコンプライアンスの遵守について学んだ。ルワンダは、5年以内に原子力科学技術センター（CNST）を開設することを予定している。

#### 【外政】

##### ・ルワンダ・シエラレオーネ首脳会談（6日）

5日、カガメ大統領は、ルワンダを訪問したビオ・シエラレオネ大統領と会談し、政治協議、査証免除などに関する3つの協力協定に署名した。

・ルワンダ、アンゴラ、コンゴ（民）、ウガンダ4か国首脳会談（13日）

12日、アンゴラにおいて、カガメ・ルワンダ大統領、ロレンソ・アンゴラ大統領、チセケディ・コンゴ（民）大統領、ムセベニ・ウガンダ大統領が首脳会談を行った。4首脳は、ルワンダとウガンダが現存する問題への解決策を見つけるために対話を継続する意思があることを歓迎するとともに、コンゴ（民）の支援を得つつ、アンゴラが2つのプロセスを促進する用意があることを歓迎した。

・カガメ大統領とチャールズ英国皇太子との会談（23日）

23日、カガメ大統領は、英国にてチャールズ皇太子と会談し、2020年6月にルワンダで開催されるコモンウェルス首脳会合について協議した。チャールズ皇太子は、同会合に出席すると述べた。

・エジプト下院議長のルワンダ訪問（25日）

23日、アブデル・アール（Aly ABDEL AAL）エジプト下院議長は、ムカバリサ（Donathile MUKABALISA）ルワンダ下院議長と会談し、ルワンダ・エジプト両議会間で汚職対策に関する知見を共有することで合意した。ルワンダは、国際汚職指数（Transparency International Index）でセイシェル、ボツワナ、カーボヴェルデに次いでアフリカで4番目に汚職が少ない国として評価されている。

・カガメ大統領の Tony Elumelu 財団起業家フォーラム（TEF）への出席（27日：RNA）

27～28日、カガメ大統領は、ナイジェリアで開催されたTEFに出席した。同フォーラムには、サル・セネガル大統領、チセケディ・コンゴ（民）大統領、オシンバジョ・ナイジェリア副大統領、ルグンダ・ウガンダ首相も出席し、5,000人を超える様々な分野のアフリカの起業家が参加した。

## 【経済】

・フランス開発庁（AFD）によるデジタル化支援（7日）

リウ（Remy RIOUX）AFD・CEOがルワンダを訪問し、スマート・アフリカ代表との間で、持続可能な開発を加速するためのデジタル化支援を目的とした覚書に署名した。

・A f C F T A 域内貿易開始の決定（8日）

7日、ニジェールで開催された第12回アフリカ連合（AU）臨時サミットにおいて、A f C F T A の運用フェーズが開始された。また、2020年7月1日からのA f C F T A の下での貿易の開始が決定された。さらには、A f C F T A 事務局は、ガーナがホストすることになった。A f C F T A の下でアフリカ大陸内の関税を削減することで36億米ドルの収入が見込まれている。なお、2020年9月1～7日、アフリカ域内貿易フェアがキガリで開催予定である。

・ルワンダのアジア・インフラ投資銀行（AIIB）への加盟（13日）

13日、ルクセンブルクで開催されたA I I Bの理事会にて、ルワンダ、ベナン、ジブチの加盟が承認され、A I I B加盟国は100か国となった。3か国は、必要な国内手続を経て、第1回の出資金を送金後、正式にA I I Bに加盟することになる。

・国際通貨基金（IMF）によるルワンダ経済動向の歓迎（24日）

ラガニIMF理事（アフリカ第2グループ）は、ンギレンへ首相及びンダギジマナ財務・計画大臣と会談し、ルワンダの経済動向、特に、2019/20年予算において国内財源を68.3%に増したことを歓迎した。GDPに対するルワンダの債務比率は32.9%と比較的低く、総負債に占める譲与的借款の割合は、2018年末時点で63%であった。

【その他】

・小中学校の新教室建設（24日）

ルワンダ政府は、120億ルワンダ・フランを投じて、小中学校に新たに1,100の教室及び1,000戸以上のトイレを建設すると発表した。これにより、どの生徒も学校まで徒歩2キロメートル以内でアクセスできる。また、世界銀行が教育分野に拠出する2億米ドルの一部を活用して、約27,000の新教室と3,600戸のトイレの新設も計画している。

・The New Times 紙と新華社との協力合意（25日）

The New Times 紙と中国の新華社通信は、24日、協力強化のための合意に署名し、お互いの記事を1年間使うことができるようになった。新華社は、ルワンダを含め、アフリカに20の事務所を有している。

（了）